

---

# 【脚の長い蜘蛛と薔薇】

逆野 銅鑼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

【脚の長い蜘蛛と薔薇】

### 【コード】

N43960

### 【作者名】

逆野 銅籬

### 【あらすじ】

小さな脚の長い蜘蛛と赤い薔薇の静かな静かな童話です。

鳥たちしか知らない谷を越えて、リスや野ウサギしか知らない森の奥に

虫たちしか知らぬ花畑がありました。

咲く花たちは季節ごとに次々と移り

深い雪に閉ざされる冬でさえ、途切れる事がないのです。

蜂たちは仕事と遊びを織り交せて、花の中をのぞき込み

儂げに見えて強かな蝶はくるん、とまいた口を伸ばし花の蜜に順位をつけています。

太った黄金虫は花の香りに酔いしれて足を滑らせ花粉まみれ。

風に木々が揺れるよりも静かな花畑。

太陽が空を駆けるよりも賑やかな花畑。

そんな花畑のはずれには薔薇の木がたくさんありました。

春が遅れたお詫びに、太陽がいつもより長く微笑みかけ

薔薇はきれいな花を満足げに咲かせています。

一番大きな白薔薇の木のうしろに

始めて花をつける小さな赤い薔薇の木がありました。

つぼみは一つしかありませんでしたが

ふっくらとした立派なつぼみでありました。

晴れが続く青空の下、つぼみはゆっくりと、ゆっくりと開いていき

ました。

そんなつぼみの中には、いつの間にか一匹の蜘蛛が居りました。小さな蜘蛛でありましたが真つ黒な体の足だけは、特別に長い蜘蛛でした。

蜘蛛はつぼみが、まだ敵めしいガクに覆われていた頃から離れた木に巣を作りつぼみを見つめておりました。

ガクの間から花びらが見え始めると巣を離れ  
薔薇の鋭い棘の間に生えた、深緑の葉に座りつぼみの事を見つめ  
ました。

そして 花が咲くのを待つばかりとなったある日  
小さな体でそつと花びらの中にやってきたのです。  
蜘蛛は長い足を折り曲げ、きちんと座っていました。

ただ 薔薇の木に葉や蜜を食いに他の虫がやって来た時は  
手足を伸ばし追いはらって、それでもやってくる輩は  
むしゃむしゃと食べてしまつのでした。

やがてつぼみは ふつくらとした花びらを外へと広げ  
しかし まだ恐る恐ると若い花を咲かせました。

蜘蛛は花びらの中におりました。

一輪だけ咲いた薔薇の花。

蜘蛛はまだほんのつぼみであった頃からこの花を深く愛していたのです。

花畑にやってくる虫たちは、花たちをとて愛しています。ラベンダーの慎ましやかさ、ツツジのさり気ない艶やかさ、アリッサムの幼気な奔放さ、マーガレットの明るい素朴さ。

それぞれの花の心を知り、虫たちはどの花も愛しています。

彼らは薔薇の心も知っていました。

薔薇の花は自分が美しく咲く事だけに関心があるのです。

虫たちはそんな薔薇をありのままに愛しておりました。

もちろん蜘蛛も、そんな薔薇をありのままに愛しておりました。

蜘蛛が座った薔薇の花は日に日に閉じた花びらを広げていきます。美しさと命が輝く瞬間を静かに、静かに蜘蛛は見守りました。

ある夕暮れ、やわらかな風が花畑を通り抜けました。

風が薔薇の花を揺らすと一番古い花びら散り、空に舞い上がります。蜘蛛は薔薇の中からそれ眺めておりました。

そして、ふと　こんな事を願ったのです。

【どうかこの花びらが、みんな空に昇って行きますように】

他の虫たちと同じように、ありのままの薔薇を愛していた蜘蛛は何かを願うなど不思議だなあと思いましたが、その長い足をまっすぐに伸ばし

風が行ってしまうまで、願い続けたのでした。

そして遂に薔薇の花は満開に開きました。

白い薔薇が目を見張るほど、大きく真っ赤で堂々としています。

蜘蛛は喜びました、嬉しいと感じました、愛おしいと想いました。

けれど、蜘蛛にそれを伝える術はありません。

けれど 何もせずにはいられなくて、

その長い足を目一杯に広げ、花びらの一枚を抱きしめて

ただ、抱きしめておりました。

青い空に白と灰色の雲がやってきます。

谷に森に花畑に雨が降り、穏やかな春の関心は山の向こうへと移って行くのです。

薔薇の花びらの中で蜘蛛は長い足をキチンと折り曲げて身動き一つせずじっとしているのです。

風が吹きました。

雨の季節を知らせる風です。

風が薔薇の木を揺らし薔薇の花が揺れました。

すると どうでしょう。

ピクリとも動かずにいた蜘蛛の体が浮き上がり薔薇の木の下に落ちました。

湿った地面に仰向けになっても蜘蛛は起き上がり薔薇の木の下に落ちません。

瞼のない幾つもの瞳には薔薇の姿が映っています。

でも、もう蜘蛛の瞳がその姿を見る事はないのです。

蜘蛛の特別長い足が、花びらを抱きしめる事もないのです。

蜘蛛は死にました。

蜂も、蝶も、黄金虫も、風も、山の向こうの太陽も、蜘蛛がいつ死んだのか知りませんでした。

…早起きな小鳥でさえ、まだ夢の中でさえずっっていることでしょう。  
白んだ空以外 まだ誰も起きていない朝のこと

突然、大きく風が吹きました。

さよならを告げる春と、気の早い夏が空ですれ違ったのです。

薔薇の真っ赤な花びらが舞いあがりました。

風の長い髪と共に、蜘蛛が愛した花びらは高く高く空に昇って行きます。

蜘蛛の願いは叶えられたのです。

大きく咲いた薔薇が散り、寂しくなった薔薇の木には一枚だけ花びらが残っております。

風が行ってしまったあと、最後の一枚もガクからその手を離します。

花びらは空へは昇らず、ゆっくりと落ちて行き

特別長い足の蜘蛛の体に、そっと覆いかぶさりました。

おわり



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4396o/>

---

【脚の長い蜘蛛と薔薇】

2010年10月22日01時42分発行